ハイチ共和国大型ハリケーン被害

TMAT 災害医療活動報告

平成 28 年 10 月 11 日　　15:00（日本時間）

第 3 報　**※以降現地時間で記載**

10 月 10 日

7:30 頃　先遣隊 2 名は現地時間 7:30 頃（日本時間 21 時 30 頃）、ポルトープランスを出発した。メンバーは、AMDA チーム 5 名（マックフレデリック歯科医師、医師（ハイチ人）、看護師 2 名（ハイチ人）、松永調整員）と TMAT チーム 2 名の合計 7 名。西側の被災地域を順に調査していく予定となっている。なお、現地調達した市販薬（(消炎鎮痛剤、小児用消炎鎮痛剤、抗生剤、調整剤、軟膏等）を持参している。

高力医師、西村看護師ともの隊長は良好。通信状態は現時点では問題なく、衛星電話（インマルサット）の通信確認も出来ている。被災地ではコレラを含めて公衆衛生上の問題について報道されているため、十分に注意して活動を行います。

13:00 頃　ミラグワーヌに到着。橋の崩落とうは見られたが、市場も再開しており、人的被害は大きくなかった。

13:30 頃　フォン・デ・ネグルという町の病院を訪問したが、外傷患者はあまりおらず ハリケーンを逃れた人が日常に戻って大量に訪れているが地元医師によりコントロールできている状態であった。なおこの病院は AMDA が支援している病院である。

15:30 頃　レ・カイという町（半島の南側海岸沿いの町）に到着。この町も落ち着いていた。

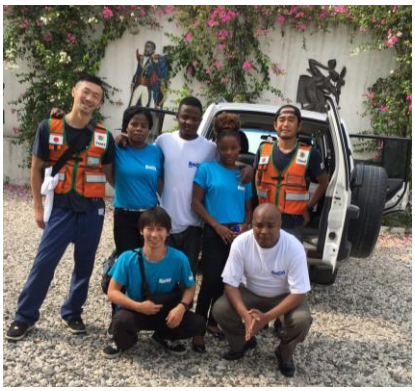
その後北上して、半島の北側海岸沿いに位置する最終目的地ジェレミーへ向けて移動。悪路の山道であったが、途中ハリケーンにより家を失った人々が避難している場所を 2 箇所訪問。
一つ目の避難所では、受傷後放置した挫創かなり酷いもの 4 人を処置。内 1 人は膿瘍が酷く腰椎麻酔下の切開が必要で街の病院に行くように指導した。

二つ目の避難所では、乳児を含めた 5 名の創部処置。うち 1 人は深い膿瘍形成あり、病院受診を指導した。
その他内科的訴えをしている方は 5 名ほど診察を行った。
外傷処置を施した患者には、現地調達した軟膏と痛み止め抗生剤など処方した。

19:30 頃　最終目的地のレジェミーに到着。壊れた建物と折れた木々が目立ち、水害による影響なのか腐臭が酷い状態であった。ただし、夜間で状況把握が困難なため、本日の活動は終了とした。（同市内になる宿営地にて宿泊）

明日は朝からレジェミーの病院や避難所等を周り、状況調査を行う予定。

メンバーの隊長は良好です。ジェレミーの通信状態はあまりよくないが、携帯電話、インマルサット等でのやりとりは可能な状況である。



TMAT・AMDA 合同 Team

避難所に集まる人々

受傷後一度も診られていない外傷患者に対して処置を実施

事務局担当

野口　幸洋　（NPO 法人 TMAT　/　一般社団法人徳洲会東京本部）

（文責　事務局 野口　幸洋）